

# 調査報告概要表

作成日 平成 19年 4月 16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670103193		
法人名	社会福祉法人 松恵会		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地 (電話番号)	鹿児島市西別府町1801番地		(電話) 099-283-7112
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま		
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F		
訪問調査日	平成19年4月16日		

## 【情報提供票より】(平成 19 年 3 月 1 日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.75 人

### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	1 階 ~ 1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4)利用者の概要( 3 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 89 歳	最低 84 歳	最高 102 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	・田上記念病院 ・西歯科
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は、隣接する町内会や民家から離れているが、周りは緑に囲まれ静かな佇まいで、母体法人の医療・福祉施設と隣接している。管理者・職員は、「一人一人の意向に寄り添って、利用者のペースに合わせて、ゆっくりとお世話しよう」というホーム理念をもって、利用者と共に暮らす家族的雰囲気を大事にして、自らも楽しみと喜びをもって介護に当たっている。利用者の表情には明るい笑顔と落ち着いた様子が見られ、利用者本位の生活が提供されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点を職員間で話し合い、ホーム独自の便り「ほのぼの便り」を発行し、利用者家族へホーム内の生活状況を知らせている。注意の必要な物品管理についても保管がしてある。案内パンフレットも作成し広報に努めている。理念については、今回、地域密着型サービスとなったことから、この点の検討を含めて理念の表現について、更に工夫が必要であるものの、全体的に改善に向けた努力がみられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように、職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	利用者代表・家族代表・地域住民代表に対して、ホーム概要を説明し、意見を出し合い、ホームの理解を深めてもらう機会としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等が、意見や苦情・不満・希望を率直に伝えられるように、職員は自ら声をかけて、何気ない会話の中から引き出すよう心がけている。また、意見箱も設置し、意見が出やすいシステムを作っているが、現在は不満・苦情は出していない。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の立地状況から地域との交流を持ちにくいのが、隣接の町内会の清掃作業や夏祭りなどへの参加を計画している。

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今回、地域密着型サービス理念ということでの理念の見直しは図っていないが、既に、地域との交流を大事に、その人らしく暮らしていけるよう一緒に寄り添いながら、支援していく視点を理念に盛り込んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者家族や職員が目につきやすい場所に掲示されており、申し送りや具体的なケアの際に、理念に立ち戻り唱和し、言葉の持つ意味をしっかりと捉えて、質の良いケアが提供できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の立地状況から地域との交流をもちにくいですが、隣接の町内会の清掃作業や夏祭りなどへの参加を計画している。	○	事業所では、隣接する町内会の清掃作業や夏祭りなどに参加の計画があることから、地域の一員としての生活が継続されるよう積極的に出向き、またそのために必要な行政機関も活用し、日常的に地元の人々と交流していけるような取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、運営者や管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように、職員全員で取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表・家族代表・地域住民代表に対して、ホーム概要を説明し、意見を出し合い、ホームの理解を深めてもらう機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続きの際に市の福祉担当者に相談しており、その際に市が整備してある便利なサービスの情報を得ている。	○	市の福祉や保健担当者と連携を深め、運営推進会議の運営や地域との交流などを相談し、市との協力関係を構築することが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の状況を報告している。遠方家族へは電話で連絡している。また、定期的にホーム便りを送付し、ホームでの利用者の生活状況を知らせている。金銭出納帳は家族の来訪の都度、遠方の家族へは2ヶ月に1回送付し、確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が、意見や苦情・不満・希望を率直に伝えられるように、職員は自ら声をかけ、何気ない会話の中から引き出すように心がけている。また、意見箱も設置し、意見が出やすいシステムを作っているが、現在、苦情や不満は出ていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの管理者や職員による支援が重要であることは理解しており、異動・離職は最小限度にとどめている。現在の職員は、利用者とはホームや併設のデイケアなどからの馴染みの関係である。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設と一緒に実施される新人研修などへ、段階に応じて出席し、ホーム内の職員への伝達を行っている。	○	地域密着型サービスとして、ホームの特殊性を發揮するためにも、ホーム内で習熟度に応じた研修に取り組むことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県・市が実施するグループホーム連絡協議会の研修会等で、同業者と意見交換し、その情報を職場に還元し、みんなでケアの質を向上させようとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前から併設の施設でデイサービスを利用していることから、自然な形で利用決定し、雰囲気に馴染んでいる。その他、利用者と家族に、部屋のづくりや生活・食事風景など見学する機会も持っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の身边に起こる出来事も一緒に喜び・悲しんで親密度を深め、人生の先輩として生活の技・文化の大事さを教えてもらう場面があり、一緒にいることで心を癒している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らしの歴史を知り、日常の会話から利用者の希望や意向に耳を傾け、思いに副えるよう努めている。把握が困難な場合は、家族や関係者から把握して、気持ちに寄り添えるよう職員間で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当者だけでなく、職員が利用者や家族の意見や希望を日常のケア中で把握し、カンファレンスや日々の記録・気づきノートから、十分に職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	面会時の家族意見や利用者の状況変化などから、変更が必要かカンファレンスで検討し、変更が必要であれば、随時、計画変更をおこなっている。モニタリングは3ヶ月に一回実施している。	○	新たな要望や変化が見られない場合も、月に1回程度の利用者や家族の意向を確認すると共に、ケア関係者の気づき・ケアのアイデアを集めて、実状に即した介護計画の十分な見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りや病院受診に家族が付き添えない利用者を、職員が同伴する等の柔軟な対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医で受診できるよう対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合の対応について、利用者及び家族・関係者・かかりつけ医そして事業所間で、考えや意向のつれをなくすための対応の準備をしていない。	○	利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、また、日常の急変に対応できるように、話し合いと方針の統一を図ることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の使用について、利用者全員に同意書をいただき、ホームでの暮らし向きの写真が掲載された「ホーム案内」を、家族以外に配付することの良し悪しについても気配りがなされている。排泄の誘導や・身だしなみ・居室のドアの開閉など、利用者の意向を尊重し、誇りを気遣うプライバシーを確保している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合に合わせることをないように、起床や就寝時間・食事時間なども、利用者のペースに合わせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜が手に入ったら、利用者に希望の料理を尋ねて、一緒に調理や盛り付けを手伝ってもらって、楽しいコミュニケーションの場としている。誕生会には、誕生者の好物を献立に載せて楽しみをつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は1日おき、時間は主に午後の時間を計画しているが、利用者の個々の希望に合わせて対応できるように取り組んでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者全員が女性ということもあり、居室や居間の壁には折り紙や手作りの作品を飾り、ホーム内での楽しみごと、気晴らしの様子がみられた。また、家事にも積極的に入ってもらって、利用者が役割を持つことで、「張り」となるような支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個々の利用者の希望に合わせて、買い物や散歩・畑の草むしり・花植えなど戸外活動も取り入れている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鈴を設置し、キッチンから玄関へのフロアの一部が見えていることから、利用者の出入りを把握する対策をとっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回、併設の特養と避難訓練を実施している。グループホーム内では、いろんな場面を想定してたびたび訓練しており、法人内の協力体制も整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の嗜好を把握し、献立に取り入れ、栄養バランスを考え調理している。食事・水分の摂取量を把握して記録し、個々の摂取状態に気配りしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体は明るくて開放的で生活感のある居心地のよい空間になっている。音や光の調節も適切である。壁には、折り紙で季節の花などが折られて貼ってあり、女性らしい可愛らしさを感じた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前まで使われていた家具や趣味のもの・日用品が、居室に持ち込まれていて、利用者が居心地よく過ごせるような支援をしている。		